

和朝

今昔物語

卷之七  
世俗部



今昔物語部 倭七目録

○世俗傳

- 一 源宛平良文合戦語
- 二 源頼光朝於射狐語
- 三 平貞道於駿河害人語
- 四 藤魚親孝子為盗人被捕質依頼信朝於言免語
- 五 源頼義朝於射殺馬盗語



今昔物語部 倭七目録 卷二

今昔物語 倭部七

○世俗傳

一 源宛平良文合戦諸

今いひりく東國より三回源二源宛武藏守仕男内舎人源二綱父村尾

五郎平良文高望王男〇從五位下鎮守府將軍と二人乃兵ありは

くろき越へたりしむら。其の道ぬいりてく程り。夜

がし中わくまはり。わくた良文が家人をくばへ

ありふ。三回源次常源の村尾をあらはしきくも。

我より中しくゆふはら。何よりつきてしむらひ

とよらば。あま不カ俊中カあざらる由故若カり。良文は

今昔物語(元禄年) 卷一

大よりのもつて宛と武道は長じつる者なれば思  
通と武藝といつて我は振んや。さうやうの。廣くは  
り出よの。いひもさかんとて。やの。さうけり。はまら  
ま。宛とさうするものあり。う。宛と腹とさう。良文が  
いふ。さうする。廣くは。出。れ。積。負。は。我。う。ん。ど。ゆ。を  
まんや。い。い。て。ゆ。づ。い。は。書。紙。通。て。事。合。は。日。給。と  
ま。り。各。軍。と。さ。の。人。合。我。う。い。ら。る。は。か。し。に。ま。り。  
す。で。は。其。日。ぬ。ち。う。ち。も。い。い。の。初。づ。り。に。雙。方。の。軍。士。  
件。の。形。は。打。あ。つ。り。づ。き。し。も。勢。は。六。百。よ。い。る。と。づ。り。ら。る。  
向。一。町。づ。り。と。臨。楯。は。つ。と。さ。紙。は。う。い。一。楯。は。の。よ

く。其。使。の。帰。ら。何。案。と。射。う。も。い。に。が。し。お。づ。ら。た  
して。志。づ。ふ。ふ。り。け。き。づ。き。け。こ。の。ぬ。ち。う。と。感。づ  
わ。り。さ。の。ら。楯。と。よ。せ。づ。い。は。射。ひ。と。す。し。づ。あ。ら。る。  
良。文。が。方。より。宛。が。方。つ。い。つ。い。つ。い。も。る。い。今。日。の。ま。り  
う。い。の。勢。乃。矢。軍。具。あ。る。は。じ。楯。が。う。い。足。下。と。我  
等。と。ゆ。二。人。と。も。あ。ら。も。さ。は。れ。う。づ。り。射。合。づ。り。て。い。ふ。  
宛。を。聞。く。ま。し。う。程。で。ら。む。し。と。さ。う。ち。り。ま。り。今  
朝。の。あ。ら。ん。と。返。辞。して。宛。が。一。楯。楯。と。さ。り。終。て  
す。み。お。大。乃。存。候。あ。つ。づ。い。款。と。あ。ら。ん。が。あ。い。う。ら。り。  
良。文。も。い。け。返。辞。を。聞。て。ま。り。づ。い。と。れ。い。一。楯。あ。せ。ま。せ

お。乃侯とけいにてとせわん。ひくせわのくうはらひ  
 系遠くおてして。良文宛が胸板とあらざて矢と  
 射つ。宛るより落るやうにておふらごん。おるれ股  
 あり。わさるより。宛又おてして。良文が胸板と射  
 して射るは。良文身をうつて矢にらごん。腰當り  
 わさるより。そのらぬいよおとせわら。ひくも各  
 せらぬら馬の遠去ちなり。いふ。えり勝負たると  
 くり。良文は。感して。雙方のくらり。えんぐらぶま  
 わ。秘し。ひく勝おたれと。甲し。あれた。わ  
 ら。い。下。に。我。を。し。ら。い。る。言。極。と。あ。そ。ぐ。武



勇にのぞきそのいづみなり。あつらひぬむめて善公とあつらひ  
 ねらふなり。今より後和強とんといひ。完ていころ  
 於不修をさす。我も同じあつらふとて。双方軍を引  
 て降すころ。それよりして。我も良文と。中よりして。つら  
 ららあつらふ。いひかひりて。づらけき。まは二人の者乃  
 武勇公。あまのひつ。世に兵敵く。あつらふ。人供供らる也  
 二 源頼光朝に射法語  
 今いじりて。三條天皇の春宮とて。東三條にやうは  
 ちり。寝殿乃。辰とけ方やう。清堂の死に擔ぐ  
 物よりして。外兵とる。まは源頼光朝に。春宮と。進よ。作

くの。是の多田たの満仲まんなか入道の子とく。さつらふ。兵か  
 べ。おんやけと。も通へつ。りき。世に。地を。て。ありき  
 ろ。おん。射法。作。し。春宮。清。と。墓。同。と。公  
 給。の。辰。乃。擔。よ。あ。物。射。と。作。を。終。も。ま。い。  
 射。え。辞。し。け。り。つ。作。と。た。い。け。ら。ぐ。一。の。終。と。麻  
 ち。と。公。も。射。作。し。か。と。今。の。を。て。め。ら。か。と。も。作。の  
 ば。射。あ。て。し。ま。さ。と。も。ま。作。の。外。人。の。射。と。つ。作。の  
 くら。う。じ。射。え。よ。地。あ。て。の。射。損。と。作。の。い。う。だ。う。あ。と  
 射。と。他。と。と。し。て。し。た。か。ん。も。清。雨。の。ち。ま。あ。や。う。の。射。よ  
 少。や。と。ま。の。人。の。射。え。辞。し。の。て。ま。は。ら。墓。同。と。取。お。て

射止りいひくをた物い位たると射止り射止り墓目  
 して射止りよいひつてるしてこそあつてはあつて  
 射止りして作らんと鳴呼がゆゑつゝはつて  
 中ついで細くちがら表衣の袖かまくらに死とせし  
 ぶせよついでるらつてつれて晴くて糸のゆくゝ糸  
 のやまに花の胸のわらつてさつてついでて送り地  
 の中にあ入り弱さつたつてつてつてつてつてつて  
 射止りちりちり射つまじつて糸の道は落ぶとにゆく射止り  
 してつて糸有れまありて宮よりけりまつてつてつて  
 作らる殿と人まてとととつてつてつてつてつてつてつて  
 作らる殿と人まてとととつてつてつてつてつてつてつてつてつて

あつて落入つておつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 しくつて感方とつてつて馬乃つてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 小ねえなよ下してつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 足いねえが仕つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 守後補のつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 後ねえ志つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 がつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 ひとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

三平貞道(せいどう)の駿河(しゅんが)守(しゆ)り(り)人(ひと)詰(つめ)







中へておぼしめしの間だくしつてゆくこと  
 四つ七多うげ男あがり人けはむさうらむじり馬下乃  
 ちうせむすんとさへい。今日まであつら落つてうらと一也  
 今のであよと聞てうけくこそ。但し多うい彼殿よその  
 せしては事なさんとせむし。我々かどの老公かむと  
 くゆ。ゆりせぬん中。頬喉てうら。貞道大り腹とま  
 て。奴がうらんとさうい。程位よそのせしてけしめあうま  
 ちうせむしとさへい。今日よりいゆ中とてうけくしあひて  
 尸とん。目ざへくさ言うらあうらよ。ち行よさうげ奴  
 射るる頸たて。河内ぬまんとさうい。あつら出まると言

少小なりて打るつてんがうい。成く。貞道師を去るに  
 かくとあつら。馬の腹中ちう胡麻負あてうら遊る  
 ゆく。廣き路よ打あて。大よさへい。てけうけ。彼男  
 ちうの思いつら事よとらして。あつらとてうらひとらぬ。  
 貞道とて一矢よ射あつら。右具とら高きとて四  
 む人射倒しけし。猿かその四方う教く。迹失  
 くら。やうて彼男が首ぬあつら。ちうらつらつらて。彼男  
 柳たぬあつらとさへい。頼信柳たうらつらて。よれ馬よ  
 鞍置て貞道にさうとら。うのら貞道人よあいて  
 尸あつら。けうけうら。通るうら。奴が。あつら。一言のうら

多射ころさる。河内般のやまの娘がくろく殺  
ちり。わかれ井の威ちりくろくと語りくば。くろく人  
ゆくねをいふ。くろく人語はくろくくろく也

四 藤原親孝子為盗人被捕質依頼信朝長言免語

今いじく河内守源頼朝長。上野守にて其國  
ある時。其乳母子に兵衛尉藤原親孝とつゝ。そのあり  
くれも格あつるをわたり。志くろく親孝が家よ盗人を  
捕つて。あつりし。ぐ。ぐ。志きん。出。親孝が子。五  
六歳。くろく男子の。くろく。くろく。け。け。け。  
け。瓜質。くろく。志。瓜。肉。くろく。此。鬼。と。藤。の下。

くぬそ。刀。瓜。くろく。くろく。鬼。乃。腹。は。くろく。わ。くろく。母。くろく。その  
河。親。孝。の。館。よ。有。くろく。家人。多。け。くろく。て。あ。子。と  
ハ。盗。人。質。に。取。ら。り。と。告。げ。し。親。孝。母。が。くろく。け。くろく。  
あ。くろく。盗。人。志。を。乃。肉。母。居。くろく。鬼。が。腹。くろく。刀。瓜。  
け。わ。て。くろく。くろく。くろく。くろく。目。くろく。れ。魂。くろく。え。て。せん。くろく。  
な。くろく。くろく。母。が。け。くろく。くろく。くろく。くろく。の。志。き。ん。は。  
げ。くろく。家。を。くろく。くろく。くろく。くろく。くろく。殺。くろく。くろく。志。  
くろく。後。くろく。け。奴。を。くろく。くろく。くろく。くろく。何。の。益。くろく。わ。ん  
や。部。多。くろく。くろく。くろく。くろく。くろく。外。を。母。の。け。くろく。いて。  
館。くろく。くろく。て。室。の。居。くろく。くろく。くろく。くろく。くろく。母。の。くろく。くろく。

氣色にてせられたる。ねむりまをてん。何事ぞや。同  
親孝をむむらひらけらる子の孝。盗人よ。質ちり入  
らして作也。ばらぐ。まけ。守。して。さ。つ。の。ま  
わ。れ。ま。定。と。孝。後。ま。く。い。ま。う。の。鬼。も。神。も。  
さ。り。あ。い。る。ん。と。さ。を。さ。ら。ぐ。ま。れ。ま。う。の。れ。小。童。一。人。ま  
は。い。ら。う。と。ま。よ。か。ら。い。の。あ。わ。し。と。ま。を。ま。い。と。ま。  
身。を。お。し。し。妻。子。を。さ。し。て。忠。義。の。道。ゆ。り。さ。う。さ。り。  
さ。ら。い。て。も。我。り。て。さ。ん。と。い。し。て。ま。か。ら。う。と。い。つ。ば。げ  
て。親。孝。が。り。ふ。い。ゆ。い。盗。人。が。あ。ら。う。童。屋。の。口。に。さ。ら。て  
る。る。盗。人。守。の。ね。ま。う。ら。う。と。ま。く。カ。と。は。ま。う。わ。て。も。

か。も。寡。あ。ら。う。ば。い。つ。わ。く。ま。氣。色。を。り。守。乃。い  
く。汝。其。童。と。質。小。取。ら。う。い。命。を。ま。ん。と。ま。よ。い。う。  
只。孝。を。こ。う。と。い。の。ま。う。や。お。ま。よ。こ。う。と。ま。よ。と。  
わ。い。盗。人。ま。び。も。あ。ら。う。声。を。い。や。う。何。事。此。鬼  
を。あ。ら。う。ま。ん。と。い。い。作。を。ま。く。命。れ。を。い。ま。ん。  
り。や。ら。う。ま。う。ま。と。ま。よ。い。て。ま。け。い。い。作。を。ま。よ。に。お。に。  
た。ま。の。で。其。か。を。投。よ。我。こ。う。を。ま。お。の。ば。く。音  
も。ま。ま。ん。の。く。い。う。ま。と。う。に。投。ご。り。の。ね。ら。う。あ。つ。と  
い。盗。人。ま。び。ま。う。と。ま。あ。つ。て。ま。け。い。ま。た。作。を。ま。よ。  
ま。う。ま。ま。い。ま。い。ま。ん。と。ま。あ。つ。て。カ。と。遠。く。投。ま。り。て

兎をいま起してゆくもれにばいふておげ入ぬ。その時  
守がくそらう去て即ちを返よびて彼男とけ方  
物とくつに。帝号あつく男が衣の頸を高くおひを  
しひまきとく。親孝の盗人をまらんとけ方しと。  
頼信制らうていつくつにけ奴身まじくしてぬす  
を。命やせらうそを償返とせたり。我ゆるをいつま  
あつて償とゆつてつるの物よおひつる奴さう。ま  
中つゆつて去つて。十日づつらの糧と乾飯とおに  
あつてあつてえさせ。草薙らぬさびて。是よりとせらじ  
る去つてやあつて。つらつて馬よあつておげ入たり。

頼信一言返つてつるばつらば。世もつて信を守つる事  
を感して。兵乃感つてくちんあつてあつてえ。りの  
質のさつらつる者。成長のつら。命牌とあつてあつ  
し。明秀阿闍梨とつらつてあつてえ。つらつてえ。

五 漁頼義頼長射殺馬盗詰

今つらつて河内前河原頼信頼長。東國のあつた馬  
りつらつてあつてえ。えよはつてあつてえ。馬は  
つらつてあつてえ。馬盗人道をけつるあつてえ。  
つらつてあつてえ。あつてえ。あつてえ。あつてえ。  
あつてえ。あつてえ。あつてえ。あつてえ。あつてえ。



くれい。道乃向して取得どして。来りてはさそそのを  
 了まら。びくして家人ども頼佐の館たかよつとて。件くだんの馬公  
 既いまよとて至り。去るふ頼佐朝たけ子。頼義此馬乃  
 幸と聞て。其さなようさうん人よこいさう。頼人も落  
 念やうぶ。さうさうられたる。あてとく。はさうい  
 ちいさんちひて。雨つこさうなれども。馬けがさ  
 ぬぬといさう。びくして。まけ方みけさうさう。頼佐對面  
 て。やどくさうさう。けさうせといさう。物語ととも  
 ちうが。け者のあつらう。げさうなれ。さうさうさう  
 聞て。こつんがらめさうさう。と推おしさう。けさう。頼義

此書は...

がしやういひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
わらや因しま。いひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
老いた馬いひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
初みくもよほくづばやふとけり。東より来た馬いひあり  
ぞうまのいひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
宿直よめ付つて。明朝あしたは付つんとし。物結ものむすをまて。東より来た馬いひあり  
わとび。又また寝ねあ。入いり。東より来た馬いひあり  
みくろ。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり  
いひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
声こゑをわけて。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり

よむと音ねくら。頼信よりのふ。是こゝに因よて。頼義よりにまま  
りせと起おこす。胡こ録ろくをうた。負お殿とんにけり。馬うまいひ  
出いで。賤せんの鞍くらわりしと。金かねく打うち。東より来た馬いひあり  
いひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
いひしきいふとけり。東より来た馬いひあり  
丸まる寝ねとて。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり  
る。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり  
追おて来きんとし。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり  
と。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり  
ふ。東より来た馬いひあり。東より来た馬いひあり

圓くいぢつぬ。び盗人いぬ。よざらる。よあて。今人の  
途得たりと。うらひて。川をひらけて。ゆく。ふ。頼信は  
そ。公國で。目さる。も。あれぬ。く。さ。頼義が  
あり。あ。も。つ。ね。も。若。を。あ。ぎ。を。う。れ。を。も。射。と  
つ。い。ら。る。言。い。ま。さ。ね。ら。う。ざ。ら。ん。い。し。こ。あ。ら。る。音  
し。き。り。射。ね。く。う。と。ゆ。え。て。人。も。あ。ら。ず。が。馬。乃。燈  
の音のうく。と。志。事。も。い。づ。頼。信。も。かく。さ。れ。よ。は。り。う。し。  
馬。公。取。く。本。位。と。な。り。つ。い。う。も。そ。て。あ。く。ま。る。公。と  
う。さ。び。帰。り。ま。り。頼。義。さ。れ。う。ら。せ。め。ら。う。て。さ。ら。公。取  
て。帰。り。ま。り。さ。ら。う。と。い。ふ。郎。名。も。い。の。追。く。に。國。つ。あ。て。

一人二人は、道の末のあひらる。京の家に帰つた。いづれは  
二三十人ほど成母なる。頼信の家へ帰つた。いづれは、夜も  
あきひら。い。の。中。に。奥。よ。く。寝。ぬ。ま。り。頼。義。も。取。  
し。つ。り。馬。公。取。ま。り。あ。づ。き。て。是。れ。寝。よ。う。り。若。明  
ふ。後。頼。信。出。く。頼。義。と。呼。び。あ。人。は。其。馬。引。出。せ。と  
て。出。て。頼。義。も。い。や。い。ら。ふ。よ。う。な。馬。と。あ。ら。る。い。づ。れ  
う。さ。び。な。い。り。ま。ん。と。い。ひ。て。あ。ま。り。う。り。骨。よ。な。あ。て  
つ。い。ざ。り。う。い。も。よ。う。な。鞍。も。て。ぞ。う。を。さ。ら。る。是。は。昨  
夜。盗。人。を。射。ら。る。福。と。ゆ。い。つ。る。か。ら。い。づ。れ。も。あ。ら  
あ。ら。る。い。づ。れ。も。い。づ。れ。も。射。ら。る。あ。ら。る。い。づ。れ。も。



今昔物語七  
たしかりけりていふも  
とくしむるまじき事なり。其の  
かゝる事は、かゝる事なり。

今昔物語七



